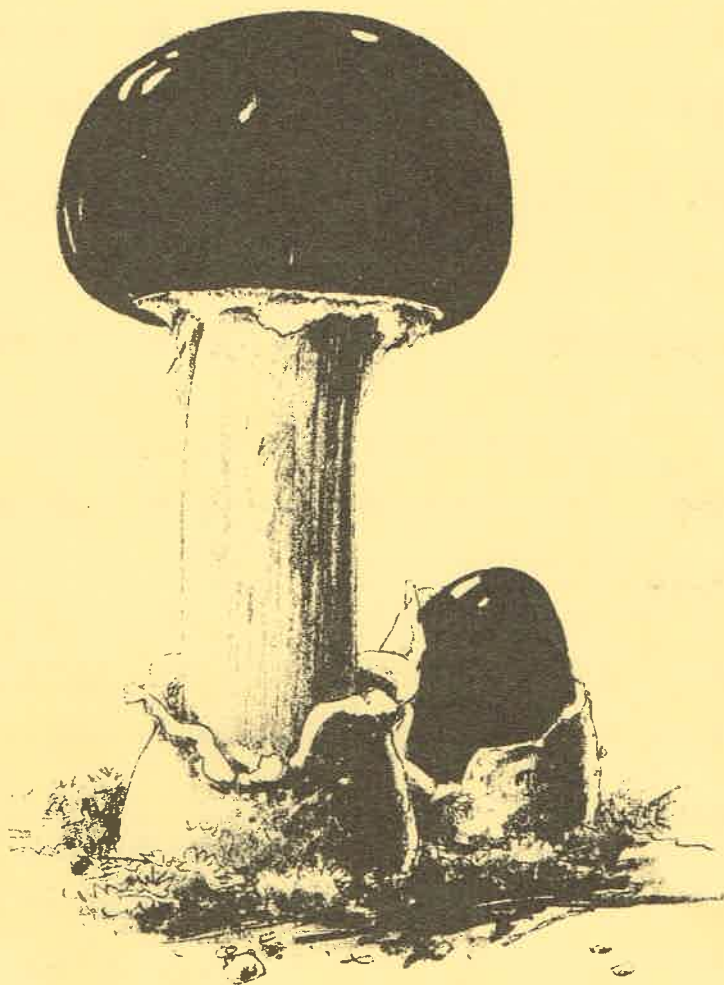


# エゾマツ



No. ~~65~~ 2003. 10. 24  
66

北海道ボランティア・レンジャー協議会

# 編集後記

1. 巻頭言 楽しく事故の無い観察会を目指して 会長 川 端 功 治 (1)
2. 新会員紹介 ..... (3)
3. 初めてのガイド ..... 熊 野 美 子 ..... (4)
4. ポラレン1年生 ..... 内 山 恭 子 ..... (5)
5. 教えることは、学ぶこと ..... 春 日 順 雄 ..... (6)
6. おくやみ ..... (8)
7. 人との出会いから私の夢へ ..... 濱 本 真 琴 ..... (9)
8. キーワード ..... (11)
9. 第3回宿泊研修 ..... 小 林 英 世 ..... (13)
10. カツラの黄葉の香り ..... (15)
11. 本の紹介 ..... (16)
12. 検定試験のススメ ..... (17)
13. 観察会研修会情報 ..... (20)
14. 編集後記 ..... (21)

## 楽しくて事故の無い観察記を目指して

会長 川端 功治

観察会に参加して数多くのお客を案内する会友諸兄が行程を終え、解散を宣言してホッと一息ついたとき、さようならの挨拶やらお礼の言葉をやりとりしながらこみあげてくるのは、今日一日が無事で楽しく終わったことの喜びと感謝であります。

突然の転倒による捻挫骨折、スズメバチによる被害、ダニの加害によるムーブ病の感染懸念等の心配やら、下り勾配ではスリップによる転倒骨折の懸念を大声で注意を喚起するのが常識ですが過日、札幌市民にお馴染みの三角山（標高311メートル）の遊歩道で、310メートル地点の上り勾配でスリップして転倒、くるぶしの上部を骨折して苦しむ婦人を目撃しました。

驚いてすぐ走り寄って見たら4名の婦人が介護しているが途方に暮れているのは携帯電話が通じない。通称ケイタイにはそれぞれ能力差があることを思い出し、早速通行人に「救急願ひ」のケイタイ使用をお願いする役目を引受け、大声で呼びかけたら早速に応じてくれた婦人のケイタイは（三角山）（頂上付近）（69歳婦人）（骨折）とコマ切れ。通じたかどうか不明のままプツリ切れ音信不通となってしまった。これでは悪戯電話と受け取られたかもしれない。周囲は樹木が林立しこれが発信の障害になっているのだろうか。

些か慌てた私は直ちに「登行中の方におねがい！お持ちのケイタイで骨折患者の救急を、発信してみてくださいませんか！」と叫んでいたら、幸いにも「私にお任せ下さい」と中年の女性から申し出があり、早速通話開始、患者の骨折の状況を事こまやかに説明し、対応策の指導を受けつつヘリの発進、救急車の山元待機、隊員5名の駆け足登山のうえ、患者を空中待機のヘリまで搬送する確約まで取り付けてくれたので感謝感激。関係の無い単なるゆきずりの私でも深々とお礼の頭をさげました。程なくヘリの轟音が頭上に響き渡り、救急隊が駆け登って来た。

それにつけても、この恩人の愛用しているケイタイは衛星経由の機能で世界の

何処にでも通話が出来る優れ物、時価30万円以上はするそうだ。

この話題におまけがあります。次の隊長と患者とのやりとりした対話のことです

「貴女が最初に申告してきた年齢は69歳次の申告は70歳。いずれが真実か。私達は通年待機して嘘の悪戯電話に悩まされていますが本日は一字一句聞き逃すまいと緊張して申告を聞き取っていたところ全てに真実味があり、終始誠実にあふれているので出勤命令を発しましたが69歳と70歳のいずれが真実か告白なさい！」これには一同シュンとなりましたが、5歳や6歳若く取り繕うのは女性の特技で別に驚くことはありませんが、逆に1歳をプラスしたのは珍しい。

担架上の患者は恐縮しながら「実は69歳が本当です。70歳とすれば敬老者扱いになり何か恩典があるかと思っただけのこと、済みませんでした」には一同アングリ。それでも一同気を取り直して彼女を乗せたヘリコプターを手を振って見送り、ガンバルのだヨーと励ましの言葉を添えた方もいました。

このトラブルで幾つかのことを学びました。ほんのちっぽけな登り勾配でも事故は起こり得るし、高齢者は骨折の危険があること。ケイタイは日進月歩のメカであり、その性能は高く評価すべきものがあります。

それにしても忘れられないのは、思い掛けない救急隊の真剣さと誠実さに敬意を表しその行動力を高く評価したいと思います。とかく怠惰高慢のお役所仕事として誹りをうける行政には無い行動を目にしたショックは大きい。

これは古い話ですが数人の女性会員が当会はお役所みただから嫌いだと脱会の理由を述べておりました。どんな所がお気に召さなかったのか一向に要領を得ませんでした。現在は楽しくて住み心地の良い会の雰囲気だと胸を張って誇りにしております。これは仕事の本命である観察会に反映し明るくて楽しい運営の結果、散会の時には参加者から「楽しい一日をどうも有り難う」の声が交わされて嬉しさがこみ上げてまいります。何としても無事故の観察会を守り抜きたいと思しますので、会員各位の献策指導鞭撻を期待致します。

↓  
はかりごと  
上の者に申しあげる。

# 新会員紹介

7月、芦別で行われた育成研修会で本会に次の12名の皆さんが入会されました。

鷺塚一子、佐藤敏幸、熊野美子、春日順雄（以上札幌市）

山本律子（北広島市）、内山恭子（江別市）、竹腰順子、谷口勇五郎（苫小牧市）

村田光顕（小樽市）、堀清弘（喜茂別町）、若松市政（芦別市）

長谷川俊治（帯広市）

ボランティア・レンジャー協議会の一員として各地で活躍されることを願っています。

帯広市 長谷川 俊 治

この度、新入会員になりました、長谷川です。自然に対する知識はもちろん、スタッフとしての心構え等、全くありませんでした。今後、コツコツ勉強していくつもりです。

最近思うことは、野草って今まで見過ごしていたせいか、よく見るととても個性的な顔を持っているな、とつくづく感じております。名前などは、まだよく覚えられないしておりますが、マイペースで覚えようと開き直っております（笑）。今後とも宜しくお願いいたします。

千歳市 竹 腰 順 子

千歳ふるさとポケットというお祭りて「自然と遊ぼう」コーナーを手伝ったが、最近の子どもでも、やじろべえ、松ぼっくりの人形などの作成に興味を持ち楽しんでた。

まむし草の実を不思議そうに見て「きれいだね。」という子もいて、すてたもんじゃないなどうれしくなった一日だった。

# 初めてのガイド

札幌市中央区 熊野 美子

今年研修会を受講し、北海道ボランティア・レンジャー協議会に仲間入りさせていただきました。

初めてのガイドは、8月8日 子供会小学校4～6年生8名との森の観察会でした。前日にコースの下見をしましたが、不安なまま当日を迎えました。出発まではかなりの降雨でしたが、出かける頃には幸いにも雨が上がり晴れ間も出てきて助かりました。

開拓の村より森に入り、魚のオヒョウの形から名が付いたと言われるオヒョウニレの木の葉の形を見ながら樹皮はアツシの材料になることを学習し、ハイイヌガヤの実をさわって観察しながら進み、ミズナラの大きな<sup>①</sup>記と足下に<sup>②</sup>幼記がある所で立ち止まり見比べました。人工林と天然林を見上げている時、<sup>③</sup>る子が匂いに気がつきました。雨の日の森の匂いです。子供たちは前日からのキャンプで疲れていたようで、あくびを連発していました。それが森の匂いに気が付いたのです。私の方が目が覚めた<sup>④</sup>でした。子供ってすごいと感心させられました。私の話が子供たちに“おも<sup>⑤</sup>ろい”と思われるような内容と話し方が出来れば、あくびなんかしなかったのではないかと未熟さを思い知らされました。

その後、アオダモを観察していたら「バットはこんな細い木ではダメだ」と言う子にうなずきながら終点の開拓記念館前で解散となりました。

会に入会して、豊富な知識と経験をお持ちの方々とお会いする機会が増え楽しく過ごさせて頂いています。私のうる覚えの知識を正確にきちんと訂正してくださる方、ユーモアいっぱい森の中を楽しんでいる方がいたりして、とても楽しく心満たされる<sup>⑥</sup>です。あせらず時間をかけて勉強させていただきたいと思います。

# ボラレン1年生

江別市 内山 恭子

「これはなんてしょう」そろそろ春の兆しが見える観察会でした。それは軟毛のある冬芽です。私は得意気に「コブシ」と言った。返って来たのは「正確にはキタコブシですよ」とおっしゃる案内人の声だった。この時、植物に対しての認識を新たにさせられました。丁度札幌に引っ越しして頃でした。

それから機会あるごと観察会に参加して、森を歩く事が楽しくなってきました。今年6月頃は野幌・志文線であまり見かけない端整な姿で伸びている3本の草が気になりました。葉も葉の付き方も特徴があるなあと思いながら気にしていました。

7月になって蕾を出してきたら、なんとアケボノソウではありませんか、こんな小さな発見がとってもうれしいのです。

また先日の小学3年生の観察会では、「何でも質問してネ」と歩き始めると、子ども達は「これ何」、「あのキノコ食べられるの」、「どうして水が溜まっているの」と聞いてきました。そのうち大きな葉を引きずってきた子どもがいました。

「折ってきたの」と聞くと「折れていたから」と言う。後のまつりです。そこで葉っぱと子ども達の背くらべて。「あなた何cm」、「130cm」、「いや〜ボクと同じ位だよ」と別の男の子。子ども達は少し低いとか、高いとか賑やかなこと、自分と同じ背丈の葉は驚きでもあり、皆は嬉々としていました。私もミズバショウの葉が大きいとは知っていましたが、実際計ってみると改めてその大きさにびっくりです。

森から感動をもらって、お互いに感動を伝えあって森を歩くことは興味がつきません。友達の輪や知識が広がっていくのは本当にうれしいです。今はボラレン1年生ですが、何年生までなれるのか。いろいろ教えていただき勉強していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

# 教えることは、学ぶこと

札幌市厚別区 春日 順 雄

自然は、無限の広がりと深さを持ちます。

これからは、ボランティアレンジャー（自然解説員）というプレートを胸につけての活動となりますが、しっかりとした識見の向上に努力しながらも、自然の入り口にいるということを自戒の言葉として持っていきたいと思います。

人間、生を受けたときから、自然の一員として、自然と共に暮らしていますから、自然認識皆無の人はいないでしょう。解説するものも、されるものも、みんな自然の入り口、互いに学び合う姿でありたいです。教えることは学ぶ事という自己啓発の姿を大切に、生涯にわたり学び続け資質を高めることを大切にしたいです。

これまでに、何度か自然観察会のガイドをしてきました。思い出の場面をいくつか述べてみます。

## 1.自分より遙かに博学な参加者と一緒だった思い出

彼は、私より10歳ほど年長でした。物静かで、決して出しゃばろうなどというタイプではありませんでした。私の自然解説に対する反応が、他の参加者と違うことに気づいたのは、出発してすぐのことでした。さらに、彼の持っている図鑑を目にしたときには、驚いてしまいました。大切な参考資料はカラーコピーして必要事項を図鑑に貼り付けているのです。「この図鑑だけで用を足そうと思ったら、こうなった。」と、彼はいいます。なんたる情報活用能力の適切さだろう。以後、彼とは、自然探究の友として、他の参加者には自然解説者として、そんな関わり方で観察会が進行しました。昼食時、彼との会話から、老後を立派に生き抜こうとする崇高ささえ感じる事が出来ました。自然観察会には知識を深めるために数多く出ていること。冬は、体力を保持するために、ゲレンデスキーをやっていることなど、いい話を聞きました。午後からの彼は、わずかに饒舌になりました。彼の得意とするシダ植物については、良い勉強をさせて頂きました。「世の中に、沢山の賢者あり」を実感した一日でした。それにしても、自然解説者としての平常心の大切さを肝に銘じた一日でもありました。「おごるな！自然解説者。分からないことの自覚と謙虚さも大切です。」

## 2.「しまった！」と反省した思い出

7月上旬実施の自然観察会のことです。サルナシ（コクワ）の花が満開でした。綺麗でした。「コクワは雌雄異株です。雄株には、雄花が咲きます。雄



花は、群がって沢山つきます。香りもありますから、虫媒花でしょう。雌株には雌花が咲きます。実は雌株にだけ付きます。「雄花をみてください。」「雄しべだけで、めしべがありませんね。」などと、話しながら説明を進めていきました。時間にも余裕がなかったこともあって、雌株の花をさらりと見るだけで通過しました。その時、あまりにも花が綺麗なのでデジカメで写して帰りました。



<雄花>

家に帰って、パソコンで花を見ました。雄花を見て、次に、雌花。見て、ビックリしてしまいました。めしべの周囲に雄しべがあるではありませんか。

早速、何冊かの図鑑を見ました。雌雄異株の記述のみのものがありました。一方、「雄株と両性花がある。」と、記述しているものもあります。マタタビ科は、雄株と両性花をつける株なんですね。自然観察会の失敗で、自分の足りなさの自覚と、そして、良い勉強をしました。「教えることは、自分にとっては学び」でした。



<両生花>

### 3.子どもたちを対象にした観察会の思い出

朝、自然観察会に参加したら、私の担当が、家庭教育学級の父母と子どもたちであることが、分かったときの事です。2.3年生の明るく可愛い子どもたちと両親たちです。このような子どもたちを相手にしては、下見の結果も役立ちません。心に描いたテーマも役に立ちません。どうしたらいいかな。頭が真っ白になりました。

木の葉に触れることから始めました。「ハルニレの葉にさわってみよう。」「ウワー、ザラザラだ。」「ナナカマドの葉を一枚探ってみよう。」「実はね、ナナカマドの葉っぱはね。何枚もついているようだけど、これで一枚です。」「ハルニレの木の肌に触ってみよう。」「ザラザラだ。」「シラカバノ木の肌にさわってみよう。」「白くて、スベスベだ。」「ブンゲンストウヒの葉にさわってみよう。」「ウワー、チクチクして痛い。」「こんな木を家の周りに植えると泥棒よけになるね。」

こんなことの連続で観察会を終えました。子どもも両親も楽しみと充実の一日であったようでした。参加者の構成によって内容を変更する柔軟さも必要であることを実感した一日でした。

解説者にとって、自然観察会は学びの場でもあります

## おくり申しあげます

札幌市東区にお住まいの会員 菊池秀樹様が今年7月にご逝去されました。仕事を休まれ療養に専念されていましたが、残念な結果となってしまいました。

菊池秀樹様は本会の役員を2期4年間にわたって勤めて頂きました。広報部に所属して、広報誌「エゾマツ」の編集や発送に携わっていただきました。また、時に応じて原稿を提供していただいたり会の運営に積極的に関わっていただきました。

自然調査にも熱心で、毎年行われる野幌森林公園でのクマゲラ調査にも参加していただきました。ここに、生前の本会によせられましたご協力に感謝申し上げますとともに哀悼の意を捧げます。

### 鳥の世界の掟

札幌市東区 菊池 秀 樹

鶯などの観察に足を運んでいた2月下旬のある日、すばらしい光景に出会い感激いたしました。石狩川の堤防のとある場所でした。

一羽のカモメが川岸で一匹のヤツメウナギを摘みだしたのです。ところが獲物が大きすぎたのでしょう。扱いきれずにヤツメを放棄してしまいました。その直後、数羽のアイサが手(口?)を出したのです。やはり大きすぎたようでもてあましておりました。すると、突然上空より二羽の鶯が舞い降りて来て、地上すれすれの空中戦を展開したのです。よく見ると、その二羽はオオワシとオジロワシでした。数度の戦いの後、何と、凱歌は少々体型の劣るオジロワシに上がったのです。さらに感動したことは、勝敗が一度ついた後、勝ちを譲ったオオワシはその後決してオジロのつかんだ獲物を横取りしようとはしなかったのです。厳しい環境に生きながらも、そこには彼ら動物世界の「掟」と言いますでしょうか「相手を認める根性」とでも言いますでしょうか、我々人間が見失ってしまった何かを教えてくれたような気がいたしました。

二羽の鳥に感謝をしたい気持ちで小雪降る中を帰ってまいりました。

(エゾマツ 1999. 3. 30 No.48 寄稿文より)

## ～人との出会いから私の夢へ～

野幌森林公園事務所 濱本 真琴

野幌森林公園大沢口にオープンした「自然ふれあい交流館」の濱本です。

今年で3年目を迎え、北海道ボランティア・レンジャー協議会の方々や訪れるお客さんにも、とても親しくしてもらっています。

もともと、とっても恥ずかしがり屋（全然信じてもらえませんが…）で、人相手のことは絶対にしたくありませんでした。今の私があるのは、いろいろな方たちとの出会いや影響を受けたことが大きいと思っています。

その「人との出会い」を私は「奇跡的な出会いだ!」と思っています。

この地球に「ひと」が誕生してから、いったいなん人の「ひと」が生まれてきたのか。そして、その長い年月のなか、「同じ時代」・「同じ国」・「同じ場所」・「同じ瞬間」に、今ここで向かいあっていることが、奇跡的な出会いなんだと感じます。

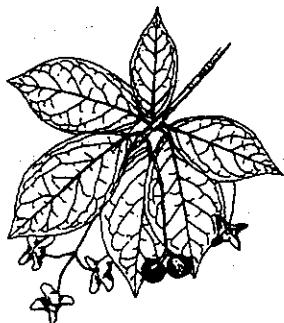
一生涯、会うことも、話すことも、お手紙を交換することも、相手の存在を知ることでもできなかったらと思う人たちと、そんな奇跡的な出会いをし、今この場があります。お客さんの中にも、職場の中にも、道行く人たちの中にも、いやな人や苦手な人や嫌いな人がいることだってあります。でも、「この人とは奇跡的に出会ったんだ」と思うと、とってもとっても嬉しくなりジーンとしてきます。

私の将来の夢は、地元「女満別」で自然と人との架け橋をすることです。これとってめずらしいものがあるわけではありませんが、空の玄関口としてやれることがあると思っています。知床で観光客（主に道外）をガイドしていたとき、北海道の自然にふれるのがいきなりヒグマの生息する森で、ほとんどの方が気持ちも服装も準備不足で、せっかく良い森を歩くのにとってももったいないと感じました。女満別で自然の楽しみ方やマナー、北海道の歴史など少しでもガイドを受けた後、阿

寒や知床のように大きな自然があるところに行けば、もっと楽しめると思ったからです。自然を楽しむ方法は無限大にあり、自然を守る方法もたくさんあります。そんなお手伝いが少しでもできればいいなあと思っています。

じいちゃん子だった私が、小さい頃から畑に行くにも近くの森に行くにもじいちゃんについて回ったように、「ひと」と「場所」を次の代に残してあげたい、伝えたい。そう強く感じます。

野幌森林公園での観察会では、しおりの作成や観察コースの設定、当日の運営の手配など、ボランティア・レンジャー協議会は濱本さんに大変お世話になっています。「ふれあい交流館」に行くと、笑顔の濱本さんに会うことができます。忙しい勤務の中、快く寄稿していただきました。



### 移入種⇔外来種

環境省は外国などから人為的に持ち込まれる既存の生態系を乱しているアライグマやブラックバスなどの動植物を示す呼称について「移入種」から「外来種」に変更・統一することにしました。

いままで、「移入種」という言葉を使っていましたが、中央環境審議会の小委員会が「生物学では自力か自然に動いたものが移入種」どの意見で改められました。

# キーワード



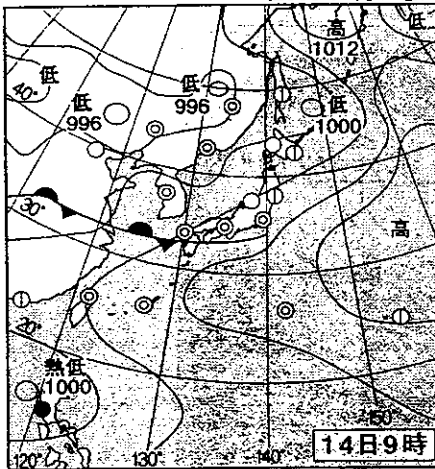
## オホーツク海高気圧

今年の夏の気候はご存じの通り冷夏になってしまいました。特に、北海道や東北地方がその影響を受け、農作物の収穫量や品質に打撃を受けています。今年の夏の(6~8月)北海道の平均気温は平均比が1.1℃低く、戦後5番目タイ、東北地方は同1.3℃低く戦後3番目タイの低温でした。道内での最高気温の30℃以上の真夏日がほとんどなく、降水量、日照時間もすくなく推移してしまいました。

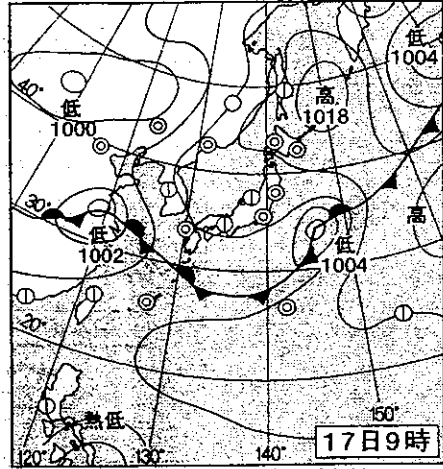
真夏日は平均して札幌では7.5日あるのがゼロ、旭川では同じく10.4日あるのがわずか1日でした。道内主要観測地点19ヶ所のうち17ヶ所までが真夏日ゼロでした。

この道内の冷夏の原因は、オホーツク海高気圧が長期間張だした一方、日本列島南部では、夏の暑さをもたらす太平洋高気圧の張だしが弱く、冷たい空気が北から南に向かって流れ込んだのが主な原因だと言われています。

太平洋高気圧の張り出した平年並みの夏  
(2000年7月14日)



オホーツク海高気圧の張り出した今年の夏  
(2003年7月17日)



オホーツク海高気圧は平年ですと7月ごろになると発生しませんが、発生しても張だしが弱いのが通例です。この高気圧は水蒸気をたくさん含み、雲がてきやすいのが特徴です。従って曇りの日が続く、低温と日照不足が起きます。

オホーツク海高気圧が居座った原因を地球規模で見ていくと、フィリピン付近の太平洋にある大気の大気対流活動が、赤道近くまで南下していたことによると言われています。

対流活動域では強い上昇気流が生じ、その流れが降下してくる北側の海域では太平洋高気圧の勢力が強まるが、今年は活動が南にずれたため、太平洋高気圧が北に張り出さなかったといわれています。これに加えて、日本付近を流れる偏西風が大きく蛇行し、そのくぼみにオホーツク海高気圧が抱え込まれ、強い勢力を維持したまま居座ってしまいました。

一方、日本列島の南東部で発生した太平洋高気圧は例年より張り出しが弱めでした。偏西風の蛇行の影響で日本列島にスムーズに進めないばかりか、力不足でオホーツク海高気圧を追い出せず、結果的にオホーツク海高気圧が長く居続けたことになったのです。

オホーツク海高気圧は、地球を取り巻く上空の偏西風が大きく北の方に蛇行したときにできる大規模な高気圧です。それだけにいったんできると、移動性高気圧と違って、しばらく動かないので、北海道や東北地方では冷夏になってしまったと言えます。



### 第3回宿泊研修

研修部 小林英世

今年度の宿泊研修を上富良野町の白銀荘において開催しました。天候にも恵まれ、会員14名、会員外2名の計16名の参加を得ました。遠くは釧路、白滝からも参加いただき大変嬉しく思いました。

当日10時に富良野市のAコープに集合し、買出しを行っていると言われているのに、数名の会員が集まってきたので驚きました。買出しと食事の不手際で1時間ほど集合時間に遅れてしまい、大変迷惑をかけてしまいました。到着後荷物の搬入を終わらせ、早々この日の研修を始めました。まず、ネーチャーピンゴと題して、1から9までの数字をランダムにマスの中に入れてもらい、自然の中にある数字を探すゲームをしながら、九条武子の歌碑の所まで行きました。例えば、オオバコの葉脈は5本なので5、といった具合に探してもらいました。こじつけの数字でごまかそうとする人もいて和気藹々のゲームとなりました。帰りは、「仲間を探そう」ゲーム、普段食べたり見たりしている植物の仲間を山の中で探してもらうゲームです。例えば、アスパラガス、レタス、長ねぎ、ほうれん草など、皆さんわかりますか、ゲームをしたり林床の植物を観察したりしてその日の研修終了、白銀荘のお湯につかりその日の汗を落とし懇親会となりました。富良野の南部さん提供の肉を使った肉鍋、もろもろの惣菜を盛り付けたオードブル、わが会の女性陣の手際の良さに驚きながら、配膳に励む男性陣でした。宴もたけなわとなり研修部長自らの宴会芸も飛び出し、かなりの盛り上がりを見せた懇親会でした。

翌日は、全員で協議した結果、富良野岳のお花畑が綺麗では？という事になり、体力に自信のある人達で富良野岳登山となりました。ゴゼンタチバナ、エゾイソツツジ、マルバシモツケ、カラマツソウ、モミジカラマツソウ、ショウジョウバカマ、ウラジロナナカマド、エゾヒメクワガタ、エゾコザクラ、アオノツガザクラ、コイワカガミ、ウメバチソウ、ハクセンナズナ、ミヤマアズマギク、キバナシャクナゲ、イワヒゲ、イワウメ、ホソバイワベンケイ、コモチミミコウモリ、ハクサンイチゲ、ヨツバシオガマ、エゾルリソウ、等など高山の植物を観察し、頂上では、山座同定し360°のパノラマを楽しみました。途中かなりゆっくり登ったつもりでしたが、不調を訴えて下山となった人もいて、9名の登頂となりました。下山後再会を誓いそれぞれ帰路に着きました。時間に余裕のある人達で、カミホロ荘の温泉に浸かってきました。

参加された皆さんご苦労様でした。私事ですが、これで富良野岳登頂10回目となりました。

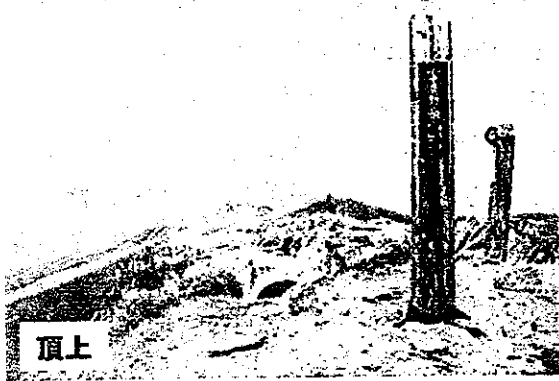
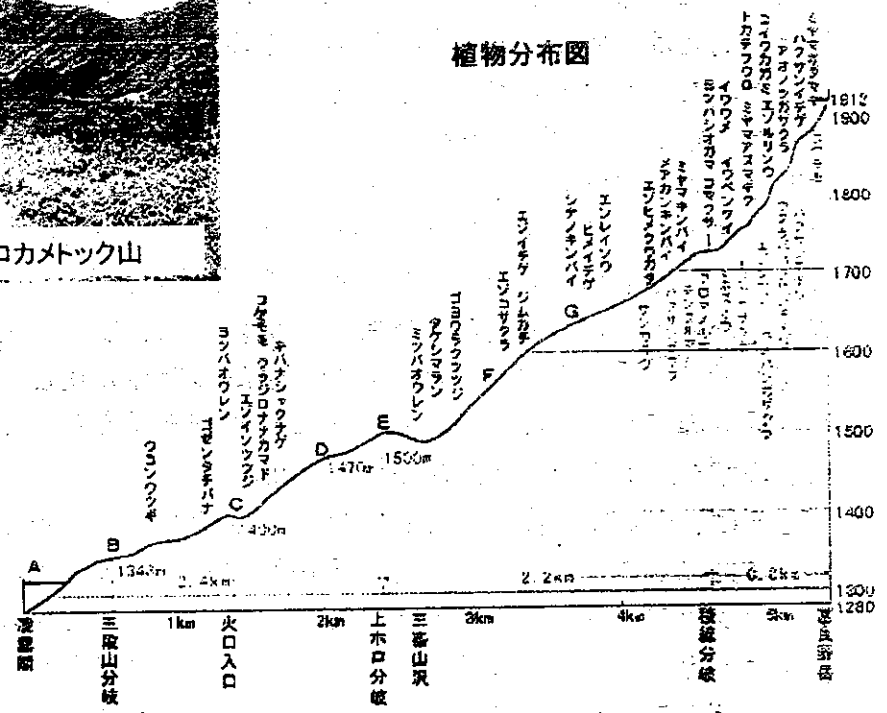


富良野岳



登山口から見たカミホロカメツク山

植物分布図



頂上



安政火口



# カツラの黄葉の香り

木々が葉を落とす頃、カツラの木の下を通ると大変いい香りがします。葉が青い時には匂いませんが、落葉するころになると匂ってきます。

カツラは「古事記」に香木と記されてもいますが、語源は「香出(かつ)」から転訛したとの説があります。香木との言い方は各地に今でも残っていて東北地方では「コウノキ(香の木)」と呼ぶそうです。このほか「マッコウノキ(抹香の木)」・「オコウノキ(お香の木)」・「オコウギ(お香木)」などとも呼ぶ地方もあります。秋にカツラの葉を採取して乾燥し、粉にして抹香をつくるので、各地で香りにちなんだ呼び名をつけたとも考えられます。

この匂いの受け止めかたは人さまざまで、醤油の匂いに似ているとのことで、「ショウユギ」・「ショウユノキ」・「ミソノキ」とも呼ぶ地方もあるそうです。

カツラ(Cercidiphyllum japonicum)はカツラ科で、雌雄異株です。春の芽吹きするとき雄株が特に赤い色を呈します。これは新芽そのものが赤色をしていることと雄花によるもので緋桂と呼び、雌株を青桂ということがありあます。

カツラに関連して、枝を観察してみましょう。多くの木はいろいろな長さの枝をつけていますが、いくつかの木には長い枝(長枝)と極端に短い枝(短枝)があることに気がきます。

## 《長 枝》

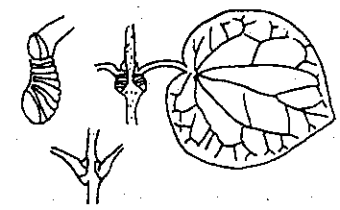
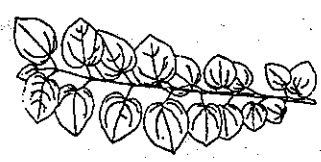
節間が伸びて葉や冬芽が茎の上に間隔をあけて並びます。

## 《短 枝》

節間伸びず葉痕と芽鱗痕とが交互に密についていも虫状になりその先端に1個の冬芽が突き出ます。そして環境条件が良くなったり、頂芽が失われた場合再び伸び長枝になります。

これらの著しい短枝と長枝をもつものがカツラです。カツラの他にはコシアブラなどがあります。裸子植物ではカラマツ、イチョウなどに見られます。

大沢口コースの入り口付近には、大木のカツラがあること気付かれている方も多いいことでしょう。カツラの材は均質で加工性がよく狂いが少ないと言われ、スシ屋の分厚い「つけ台」は北海道ではほとんどがカツラだといわれます。かってアイヌの人たちは丸木舟をつくる大事な木であり、いまでも船の底板と使われています。



側枝が短枝化し、1年に1枚の葉しかつけない。

## カツラのデータ

平地や山地の沢沿いや、やや湿った所に生える、カツラ科。葉は対生、円形か広卵形で淡紅色の長い葉柄がある。太い幹では不規則に割れ目ができてははげていく。  
花はガクも花冠もない。雄花には多数のおしべ、雌花には5個から5個のめしべがある。  
類似種ヒロハカツラは葉が大形で円形。また品種でシダレカツラがある。



有限会社ナチュラルー 編集

faura (ファウラ)

北国からの贈り物株式会社 発行

定 価 950円+税

ある地域に成育するすべての植物の名前を同定して一覧表にしたものをその地域の植物相 (フロラ flora) といいます。一般的に植物相は環境条件のよい所では複雑になり、環境条件のわるい所では単純になると言われます。

また、ある地域に産する動物の全種類をその地域の動物相 (ファウナ fauna) と呼びますし、昆虫相、鳥類相、魚類相というように特定の動物についても使われます。

9月に発行された北海道ネイチャーグラフィックマガジン「ファウラ」は動物相 (ファウナ) と植物相 (フロラ) のふたつの言葉を融合させた造語で、自然や生態系全体に目をむけようとの願いから命名したとの編集者の言葉です。

さらに編集者は北海道の自然を「エレメンツ&プレイス」の考え方でこの雑誌を表現しているとも述べています。エレメンツとは自然界を構成する「蟲魚禽獸、草木苔菌、山水風月」を指し、プレイスとはすべての場所であり、北海道の自然の総てを網羅する雑誌であるとも述べています。

ページを開くとプロの写真家の写真やイラストそしてエッセイが抵抗なく目に映ってきます。身構えずにゆっくりとページをめくる中で、写真は見る者に何かを訴えてきます。特集「ヒグマ」の草原の中から写し出されるヒグマの横顔に哲学者の風貌を重ね合わせたくになります。

巻頭言で編集者の言葉に私たちの観察会の在り方に課題を投げかけています。

……特定の生物種にしか興味を持たないマニアックなコレクション的世界が横行していることも事実です。その結果、生態系全体に目を向け生き物同士の関わり合いの妙を知り、それを大切に思うという本来の健全な自然への理解が忘れがちなのが現実でしょう。……



- Q 9 羽ばたきをやめて滑空するとき、翼の先が同体より上がった格好になる鳥はどれですか。  
 A = キジバト B = ドバト (カワラバト) C = カルガモ  
 D = ユリカモメ
- Q 10 冬の北海道でもよく見られるのは次のどれですか  
 A = ウグイス B = ツグミ C = モズ D = キジバト
- Q 11 南西諸島で1年中みられるのは、次のどれですか  
 A = カワラヒワ B = コゲラ C = トビ D = ホオジロ
- Q 12 鳥の体温は何度くらいですか  
 A = 大体36℃前後 B = 20℃前後 C = 40℃前後  
 D = 暑い時と寒い時で変わるので、いちがいには言えない
- Q 13 日本近辺でしか子育てをしないのはどれですか  
 A = シロハラ B = アカハラ C = ハクセキレイ D = シジュウカラ
- Q 14 鳥の尾羽の枚数についての説明文のうち、もっとも適切なものはどれですか  
 A = 体が大きくなるにつれ、尾羽の数も多くなる B = すべての鳥で10枚  
 C = 多くの鳥で12枚 D = 多くの鳥で13枚  
 (以上 バードウォッチング検定)

- Q 15 この植物は、葉がヒノキに、幹はスギに似ており、里山に生えているのはよくヒノキに間違えられます。木材はヒノキと同じように水に強く、その一方で、スギに比べて柔らかく、香りが少ないのが特徴です。この植物名を下記のなかから選び番号で答えてください。  
 1. イチイ 2. カヤ 3. サワラ 4. トドマツ  
 5. ゴヨウマツ
- Q 16 下記の植物の中から、帰化植物でないものを選び、番号で答えてください。  
 1. ハルジオン 2. ナンバンハコベ 3. ユメノシマガヤツリ  
 4. オオイヌノフグリ 5. オオマツヨイグサ
- Q 17 この植物はアイルランドの国花です。これは5世紀のキリスト教の聖人、聖パトリックが聖職者としてアイルランドに渡り、キリスト教の重要な教えの一つ、三位一体の教義をこの植物によって示したと言われています。  
 この植物名を下記の中から選び番号で答えてください。  
 1. エニシダ 2. クローバー 3. フジ 4. アカシア  
 5. スイートピー

(以上 緑・花文化の知識認定試験)

上記の問題は各試験問題のほんの一部です。やさしい問題、マニアックな問題、道外の植物のため道内の私たちにとって手におえない問題もあります。反面、北海道特有の植物については簡単に理解できる問題もあります。

このほかにも、グリーンセイバー検定などの試験もあります。

日本の国に住む私たちです。南は沖縄から北海道まで、各地の植物・動物について知識を広めておくことも大切でしょう。暇な時間、書籍やインターネット等で、勉強してみるのも頭の体操になりますし、目標を設定してこれらの試験に挑戦してみてもはどうでしょうか。生涯学習という

言葉もあります。冬の間じっくり勉強してみましょう。

〔回 答〕

- Q 1…1      Q 2…1      Q 3…1 (子房の壁に胚珠がついています。その壁を構成しているのが心皮です)
- Q 4 (二酸化炭素を減らすための森林の重要性が指摘されています。樹木が二酸化炭素を固定する仕組みを述べます)
- Q 5 (森林の変化すなわち遷移と森林の最終の姿を述べます)
- Q 6 (タカノツメは道南に自生、エノキとムクノキの違いはチョット?)
- Q 7 (外帯 イヌガヤ、イチイ、ユズリハ、アオキ、モチノキ)
- Q 8 (亜熱帯、暖温帯、冷温帯、亜寒帯があります)
- Q 9…B      Q 10…B      Q 11…B      Q 12…C      Q 13…B      Q 14…C
- Q 15…サワラ (サワラとヒノキは樹木全体を見る限り見分けの難しい木です)
- Q 16…ナンバンハコベ (ナンバンハコベはナンバンとありますが帰化植物ではありません)
- Q 17…クローバー (クローバーすなわちシロツメクサは江戸時代にもたらされた荷物の間につめる、つめ草として用いられたところからきています)

〔問い合わせ先〕

◆生物分類技能検定

アマチュアの4級3級試験は6月中旬 試験場は札幌でもあります。

自然環境研究センター 生物分類技能検定事務局 TEL 03-5824-0954

◆森林インストラクター資格試験

1次試験 9月下旬 (東京・大阪・福岡・高知)

2次試験 11月下旬 (東京)

全国森林レクリエーション協会 森林インストラクター事務局 TEL 03-3585-4217

◆バードウォッチング検定

例年11月中旬実施 試験場 札幌・東京・名古屋・大阪・福岡他

日本野鳥の会 バードウォッチング検定係 TEL 03-5358-3597

◆緑・花文化の知識認定試験

例年11月頃実施 試験場は札幌でもあります。

財団法人 公園緑化管理財団 TEL 03-3431-4865

◆グリーンセイバー検定

例年 ベイシック、アドバンス 6月実施      マスター 12月実施

樹木・環境ネットワーク協会 TEL 03-5366-0755

# 観察会研修会 情報

平成15年度(11月~1月)観察会予定

◎秋のありがとう観察会

11月9日(日) 10:00~14:30 (下見 11月8日)

集合場所 野幌森林公園 大沢口 ふれあい交流館

◎西岡水源地観察記(サークル活動)

11月23日(日) 10:00~12:00

集合場所 西岡水源地 管理事務所前

◎12月の森の観察会

12月18日(木) 10:00~12:00 (下見 12月11日)

集合場所 野幌森林公園 開拓記念館前

◎円山つば足登山観察会(サークル活動)

1月18日(日) 10:00~13:00 (下見 1月17日)

集合場所 円山登山口

小樽支部観察会

11月8日(土) 小樽市有林 生協みどり店東側集合 9:00

2月14日(土) 天狗山~オコバチ川 天狗ペアリフト乗り場 9:30

3月27日(土) 塩谷丸山 JR塩谷駅駐車場 8:30

申し込み問い合わせ TEL 0134-27-1701 (小樽支部代表 北原宅)

会員の参加協力で観察会を成功させましょう!

## 編集後記

- ◆各地の紅葉の様子がテレビで放映されていますが、ここの紅葉はどの地方もみごとなようです。夏の低温と秋の天気がどのように作用したのかはわかりませんが一時の森の見事さを堪能しましょう。
- ◆7月11日～13日、芦別で、今年度のボランティア・レンジャー育成研修会が開催され12名の皆さんが入会されました。会として入会の皆さんを歓迎いたしますと同時に、紙面を通じ交流していきましょう。
- ◆まもなく雪の季節です。春・夏・秋とフィールドに出て記録した自然観察のデータを整理する皆さんもいらっしゃる事でしょう。それらの資料をぜひ事務局へお届け下さい。広報誌を通して会員の皆さんと共有したいと考えます。
- ◆次年度の活動の原案作りに着手する時期になってきました。活動についての意見や提案をお寄せください。そうすることが会の活性化につながります。

北海道ボランティア・レンジャー協議会  
会報誌「エゾマツ」No.66 2003. 10. 24 発行  
発行責任者 川 端 功 治

### 表紙絵 タマゴダケ

トドマツ、カンバ類、ミズナラ等の林内地上に発生するテングダケ科です。かさは成熟時径6~18cm、幼菌は卵形、後に上方が破れて赤~橙赤色のかさを現す。かさの表面は放射状の溝線を有し、ひだは黄色。柄は黄色の地の帯赤色のだんだら模様を作り基部には白色のつぼがある。欧米では「キノコの王様」といわれるが、毒のベニテングニ似ているせいかあまり食べられない。